

道博協ニュース

第34号

発行所 北海道博物館協会
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

第30回北海道博物館大会

7月23日・24日、苫小牧市で開催

平成三年度の北海道博物館

大会は、昭和三十七年函館市

において第一回大会を開催し

て以来、三十回目を数える記

念すべき大会となります。そ

の開催地については、すでに

先の江差大会において苫小牧

市と決定されておりませんが、

先般地元・苫小牧市博物館を

はじめとした関係機関との調

整により、期日は七月二十三

日(火)、二十四日(水)の両

日に確定いたしました。なお

大会テーマ等の詳細につきま

しては、四月九日に開催され

ます道博協役員会を経て決定

されることから、いずれも予

定内容となりますが、今回の

ニュース発行は六月下旬にな

りますので取り急ぎお知らせ

いたします。

主催 北海道博物館協会

苫小牧市教育委員会

日博協北海道支部

後援 北海道教育委員会

苫小牧市

苫小牧市博物館)
⑧懇親会(18・30〜20 ホテ
ル ニュー王子)
7月24日(水)

①開会式(9・9・30 サン
ガーデン)

②施設・史跡見学(9・30、

12・30)、苫小牧市博物館、

西港、北大苫小牧地方演習林、

ネイチャーセンター、静川遺

跡等

大会参加料 会員二五〇〇

円、非会員三〇〇〇円

会場の苫小牧市博物館は、

昭和60年11月に「樽前山麓、

勇弘原野の自然と文化」をメ

イン・テーマに開館した総合

博物館で、建物は鉄筋コンク

リート造地上2階、地下1階、

延床面積は三二九四、二㎡ほ

どある。正面エントランスホ

ールにはマンモスの親子の復

元像が展示され、続く常設展

示場は一階が①大地のおいた

ち、②原野の生物たち、二階

は③原野のあけぼの、から⑦

スケートのまち苫小牧、までの

5部構成となっている。ここ

には、90個にのぼる土器を編

年風に並べて先住民族の生活

は次号にてお知らせします。



の一端を紹介しているほか、

昭和41年5月、苫小牧市沼ノ

端の勇弘川から発掘された5

隻の丸木舟など、貴重な資料

も展示されている。そのほか、

館には苫小牧市埋蔵文化財調

査センターが併設され有機的

な連携のもとに一体となって

運営されている。

サンガーデンは、博物館に

隣接した一角に中央図書館と

併置された施設で、樹木展示

場のほか、常緑樹、温室植物な

どの種類も豊富で、四季を通

して訪れる市民の憩の場とも

なっている。なお、施設史跡

見学コース等の詳細について

は次号にてお知らせします。

⑦学芸職員部会(17・17・45)

⑥道博協30周年記念シンポジ
ウム(14・30・17 同上)

⑤特別講演(13・14・30 サ
ンガーデン)

④記念撮影・昼食(11・40)

③特別報告(11・11・40 同
上) 「日本における博物館

の現状と課題」 日博協専務

理事 毛利 正夫氏

②開会式・総会(9・30・11
同上)

①受付(9・9・30 サンガ
ーデン)

平成二年度
網走管内博物館連絡協議会研修会報告

今回で4回目となる網走協
研修会は平成2年11月16日(金)
・17日(土)の2日間の日程で、
北網走北見文化センターで開
催した。

この研修会は網走支庁管内
に所在する博物館等関係機関
及び各教育委員会関係、審議
会、協議会等に関係する職員
を含め広く参加していただ
けるよう案内している。

また、このたびの研修会は
北海道博物館協会と北海道開
拓記念館が主催する「博物館
活動交流推進会議(道北プロ
ック学芸員等会議)」と共催し
たこともあって、網走管外か
らの参加もあり盛会であった。
研修会のメインとして講演
を二つ実施したので、これら
の概要を紹介する。

講演1として「エジプトを
掘る」アメノフィス三世(BC
一四一七—一三七九)の周辺
」と題し、早稲田大学教授
桜井清彦氏から講話をしてい
ただいた。

講演IIは「ゴルバン・ゴル
プロジェクトについて」チン
ギス・ハーン陵墓探索第一次
調査から」と題して、札幌
学院大学助教授、鶴丸俊明氏
から講演していただいた。

調査は日本でも実施する考古
学的手法と異なり、広大な原
野、山岳をも対象とするため
ゼネラル・サーベイの面積二
・三百km²にも及ぶ大変な作業
であったこと。また、チンギ
ス・ハーンはじめモンゴル時
代の貴人の墓は埋葬した跡が
残らぬよう数百から千頭もの
馬により地表を踏つけにする
ため、地表面には全く墓の痕
跡がないと言われている中で
の調査開始であったと言う。

第一次調査を通じ、一つの手
掛りとなりそうなものとして、
ヘルレン川上流域の調査で青
銅器時代からモンゴル時代に
亘るおびただしい遺跡、遺構
を発見。特に、モンゴル時代
の墓は日当りの良い南向き斜
面に位置し、地上に直径数m
〜10mほどの範囲に石を敷
きつめたような状況になって
おり、これらのことからチン

ギス・ハーンの墓にも地上に
なんらかの目標となる表示物
(径10mの敷石)が残されて
いる可能性があると言う。
やはり、ここでも先端科学
技術として、ヘリコプター利
用による空中電磁法を用い、
地下表層部の埋蔵物の中から
日本動物園水族館協会に加
盟している道内の十一園館の
飼育担当者が、日ごろの研究
成果の発表と技術交流を目的
に、年二回の研究会を開催し
ています。本年度の秋期研究
会は十月三日・四日の二日間
広尾海洋水族科学館を会場に
開催されました。今回は十一
園館から二十二名の出席があ
りました。

日本動物園水族館協会
北海道ブロック秋期飼育技術者研究会報告

鉱物類(副葬品)を探索する
方法もテストされ、今年度の
調査から本格的な活動に入る
と言う。類似する本道の考古
学調査でも今後利用が予測さ
れることから大いに参考とな
るものであった。

(事務局)

関係について(円山、松本)
四 イヌワシの自然繁殖につ
いて (円山、三浦)
五 エゾタヌキの繁殖と冬期
間の体重減について
(旭山、坂野)





(六) 道東太平洋岸で得られたノザワホシヒトデ属の未記載種二種及び日本初記録種一種と最近の日本産ヒトデ類の和名改称について(広尾、林)

(七) ゼニガタアザラシの人工哺育について(釧路、山口)

(八) 小樽水族館における一九九八年春のゴマフアザラシ出産から餌付けまでの経過について (小樽、梶)

(九) エゾリスの人工哺育について (帯広、阿部)

(十) トナカイの人工哺育の試み (釧路、大場)

(十一) シベリアヒヨウの飼育経過と出産、仔の斃死について (旭山、述栄)

北海道青少年科学館職員研修会報告

自由で活発な情報交換の場となり、夜遅くまで続きました。二日目の施設見学は、忠類村ナウマン象記念館、広尾海洋博物館、当水族館と続き有意義で充実した研究会の全日程を終えることが出来ました。(広尾海洋水族科学館 館長補佐 徳山秀雄)

を与え、親子での参加を容易にし、親子の対話の一助としました。また、体の不自由な人たちに、宇宙の神秘さ、美しさにも、少しでも触れ、そしてより多くの人々に、自分自身の目で本物の天体を見ていただき、天文普及の充実を図ることを目的として導入する。

(二) 移動天文車の規模
諸条件を満足させ、移動天文台としての機能を十分発揮できるものとした。

(十二) トナカイの人工哺育の試み (釧路、大場)

(十三) シベリアヒヨウの飼育経過

道内の各十一館で組織する北海道青少年科学館連絡協議会において、各館職員の研究発表、相互の情報交換及び講演会等を通じ、青少年科学館職員の向上等、館の健全な運営を資することを目的として毎年一回各館の持ち回りにより職員研修会を開催しています。

機能 二十cm屈折型天体望遠鏡をパーソナルコンピュータ制御によって、観測することができ。また、星の動きに合わせて自動追尾することができ。

て、移動天文台にたずさわる関係者は、運転者一名、館職員一名、天文指導員三名の合計五名体制で実施。

四 今後の課題

一、講演 演題「丹頂の四季」(講師 釧路市丹頂鶴自然公園園長 高橋良治)

二、事例研究発表 「移動天文車導入について」(釧路市青少年科学館専門員 五ノ井秀明)

多くの市民、特に子供達にとっては一度見たらもう一度見たくなる。今度は何が見えるか、楽しみにしていることと思われる。期待は大きい、その期待の添うことが出来るかどうか一つの課題となる。

本年度の職員研修会は、八月二十九日、三十日の二日間釧路市青少年科学館を会場に開催されました。

今回は十一館から三十名の職員、オブザーバーとして株五藤光学研究所から一名出

先駆者である札幌市青少年科学館の運営方法を参考にし、観測に係ることから、経費、運用方法等について長時間をかけて熱心な討議がなされた。

今回は十一館から三十名の職員、オブザーバーとして株五藤光学研究所から一名出

主民のいろいろな要望により、子供達への機会均等の場

一回の観測会参加人員を三十名から百名程度を基準とし、三、各館の情報交換等



平成2年度
直博物館協会学芸職員研修会

各館の特別展等の事業について報告がなされた。

研修会終了後、懇親会、施設見学を行ない有意義で充実

学芸職員研修会 in 開拓の村

平成二年度の学芸職員研修会が十月五・六日、北海道開拓の村で開催されました。十月の月上旬はこの館も事業をもち大変忙しい時期ですが、

それにもかかわらず全道各地から42名の参加者があり、盛會な研修会となりました。

第一日目は、北海道開拓の村の松田理事長から、開村か

した研修会の全日程を終えることが出来ました。

(釧路市青少年科学館

次長 水谷 登)

ら今日までの経過と現状についての報告があり、同村の堀学芸員からはボランティア活動についての発表がなされました。

北海道開拓の村の特徴は、なんといいても古い建造物を数多く保有し、維持・管理に努力していることに尽きます。

道内の博物館の多くは野外の展示物や付属施設を持つてい

ますが、村の運営に学ぶところが大きいと思われました。また、もう一つの特徴は、ボランティア制度を積極的に導入

している点であります。今後、その導入を検討している館は

もとより、各館でも適応できるものもあり、博物館と市民

とを結びつける大きな力になると痛感しました。

続いて士別市立博物館の朝日館長から、同館の野外施設

の利用と今後の問題が提起されました。博物館の講座や研修会などは、野外で行なうものにも人気があるようです。付

属施設や周辺の自然環境を最大限有効に利用した士別の活動には啓発される点が少なくありませんでした。また、ユニークな特別学芸員制度も一種のボランティア活動であり注目すべき事例と言えます。

最後に、北海道開拓記念館の平川学芸員より、昨年の夏

北海道開拓記念館とサハリン州郷土博物館の共同事業として行なわれた南サハリンでの野外調査について、特別報告をいただきました。内容は主に考古学的な分野でしたが、

北海道とサハリンは古代文化に限らず、あらゆる分野で密

接に関連しています。サハリン・沿海州地域との学術的な交流が今後一層拡大・深化し

て、多大な成果が得られることを期待したいと思います。

第二日目は、北海道開拓の村の現地研修です。大石参事

・遠藤学芸員のご案内で、広い村内を2時間半かけて見学

◇平成三年度学芸職員部会
研修会の案内◇

平成三年度の学芸職員部会研修会は下記の日程・会場で開催されます。

期日 平成三年十月二十四日、二十五日

会場 092網走郡美幌町字美幌町字美寓二五三

美幌町博物館

なお、テーマは「地域における博物館のはたす役割」を予定しております。

◇平成三年度各研修会、会議の開催地予定◇

(1)動物園・水族館関係

①飼育技術者春季研修会

札幌市 サンピア水族館

六月上旬

②飼育技術者秋季研修会

室蘭市 市立室蘭水族館

(2)青少年科学館関係

①総会・館長会議 釧路市

釧路市青少年科学館

②青少年科学館関係職員研修会 北見市 北網圏北見文

化センター

(3)北海道博物館活動交流推進会議 旭川市、帯広市、江

差町、浦河町

(富良野市郷土館 係長 杉浦重信)

館園の主な行事案内(4月～6月)

- 恵庭市郷土資料館
4・27～6・2 掘り出された恵庭の歴史
- 札幌市資料館
4・2～7・21 道内市町村文芸誌展(道央・道南編)
- 札幌市青少年科学館
4・19～21、24、25 札幌市天文台夜間公開、5・11、12、15～17、22～26 同上、21～6・12 春の移動天文台、6・26、27 婦人科学講座
- 札幌市円山動物園
4・28～5・6 91円山動物園春祭り、5・12 第28回動物写真生会、5・18 動物科学館竣工、5・12、19 探鳥会
- 札幌市豊平川さけ科学館
5・4～5 体験放流、7・下旬 豊平川さかなウオッチング
- 芸術の森美術館
3・23～5・12 梁川剛一さしえ展、5・18～6・30 収蔵品展
- 北海道開拓記念館
4・7～5・18 テーマ展「掘り出された北の歴史」、4・28～7・14 懐かしのおもちゃ展―多田コレクション逸品展、6・15～9・23 維新の激動―箱館戦争をさぐる―(五稜郭分館)
- 北海道立函館美術館
4・6～5・5 田辺三重松展、5・12～6・6 日本画一九一〇～二〇年代、6・15～7・7 村上三島とその一門展
- 大成町郷土館
6・中旬 歴史文化講座
- 青少年研修施設 開陽丸
5・18～22 幕末帆船フェスティバル、5・18 幕末講演会、5・19 見学会 箱館戦争激戦地を行く、5・20 講演会 幕末時代の軍艦について
- 小樽市博物館
4・28 自然科学講座「大地の生いたち」、5・26同「春の植物野外観察会」、6・12 歴史探訪「ニシンの跡を訪ねて」、6・29 見学会「近郊博物館を訪ねて」
- 小樽市青少年科学技術館
5・15～7・13 ジュニア実験・実習講座、4～6月毎日 曜日 ワープロ教室
- 夕張市石炭博物館
5・中旬～6・中旬 炭鉱のストロブ展
- 滝川市美術自然史館
4・13～6・16 カムイランド 嶋田忠写真展、6・29～8・4 ひつじ・羊・ヒツジ
- 砂川市公民館 郷土資料室
4・1～6・1 広報すながわ表紙原画展
- 北海道立旭川美術館
4・6～5・12 木のこころと響き―山口正城の世界、5・18～6・30 色彩と幻想の世界―シヤカール版画のすべ
- 優佳良織工芸館
4・1～11・30 アイヌの衣裳展
- 士別市立博物館
4・27～5・12 松浦武四郎―士別開拓前史、5・25～6・9 我が家のコレクション展
- 稚内市青少年科学館
5・1～12・1 毎日曜日 親子の星を見る会、5・1～学センタークラブ
- 利尻町立博物館
5・1～5・12 期間展示
- 青少年科学促進事業の発表、島の植物展、6・18～7・31 同上 ワラジムシ、5・19 バードウォッチング
- 網走市立美術館
4・29～5・12 全国教育美術展選抜展、6・19～6・23 北海道書道展(移動展)
- 遠軽町郷土館
5・3～5・12 特別展 木の遊具展、6・11～6・16 遠軽の歴史展
- 北網園北見文化センター
3・12～4・7 文化センター所蔵作品展、4・16～5・5 未来の夢科学の絵展、5・11～5・26 市制50年記念現代日本画展、6・1～6・9 屯田肖像画展
- 苫小牧市博物館
5・25～3・14 平成3年度博物館大学講座
- 苫小牧市科学センター
5・1～4・1 一日科学センター、5・1～11・1 科学センタークラブ
- のぼりべつクマ牧場
4・29 見学会 子熊の幼稚園牧場入園式、5・1～10・

- 30 クマ祭り、ヒグマのシヨ
- 1 ●室蘭市青少年科学館
 - 4・20～4・21 科学技術週間協賛行事 プラネタリウム無料公開、科学映画、工作教室、6・中旬 さつき展
- 室蘭市民俗資料館
 - 4・23～5・末 未公開資料展、5・12 ミズバシヨウ鑑賞会
- 帯広百年記念館
 - 4・1～9・1 記念館講座（陶芸講座、木工芸講座、園芸講座他）
- 厚岸町郷土館
 - 6・1 第2回自然と歴史を訪ねて、6・1 第1回ゼニガタアザラシウオッチング
- 釧路市青少年科学館
 - 5・1～2・1 移動天文台
 - 5・1～2・1 小中学校実験学習
- 斜里町立知床博物館
 - 5・14～5・18 見学会 春の星座観察会、5・26 同知床半島の野生動物観察会
- 留萌市海のふるさと館
 - 4・28～5・31 企画展 オロン鳥の住む島―暑寒別、

- 天売・焼尻国定公園の自然―
- 5・12、6・30 自然観察会
- 美幌博物館・美幌農業館
 - 3・17～5・26 企画展 博物館収蔵資料展、6・上旬 博物館寄贈資料展
 - 7・上旬 博物館寄贈資料展
 - 5・1～11・1 体験教室
- 釧路市立博物館
 - 4・14～5・19 特別展 新収蔵資料展、6・16～7・14 釧路空襲展
- 北海道立北方民族博物館
 - 4・21 講座「北方の舟」、6・9「北方民族の有用植物」

以上は、「平成3年度各館の普及及び展示事業調査」から一部紹介しました。新年度に入り、各館園の実施計画がまとまりましたらお知らせ下さい。次号は7月～9月の行事をお伝えします。



館園紹介

江別市郷土資料館

江別市中央公民館の新築移転（現江別市コミュニティセンター）に伴い、建物を全面改築して、平成三年四月十日に開館予定の最も新しい館である。

鉄筋コンクリート二階建て延べ九百七十七平方メートルの建物は、展示場、研究室、保存作業室、資料撮影室、事務室などに分けられている。常務展示は、「大昔の人のくらしから屯田兵の入植をへて大麻団地の造成までの江別市の歴史を展示」（郷土資料館建設資料による）と、江別の歴史を、テーマ1 大昔の江別、テーマ2 大昔の江別、テーマ3 開拓の始まり、テーマ4、町の発展、テーマ5 産業の歴史の五つに分け、実物資料を中心とした展示構成となっている。

江別市の現況を示すテーマ1を過ぎ、テーマ2、大昔の江別では、江別太遺跡等から出土した土器類が、縄文時代、縄文時代、擦文時代と変遷区分に従って約五百点という大量の資料が展示されており、また、昭和五十年代に元江別地区で発掘された北海道式古墳の資料やジオラマ模型などは北海道の考古学にとって極めて重要な部分であり、特徴のある展示となっている。

また、テーマ3、開拓の始まりでは、対雁駅通、樺太アイヌの移住、江別、野幌、篠津各屯田兵村の設置、北越領民社による開拓と、北海道の開拓史にとっても重要な歴史展であり、テーマ5、町の発展では、開拓期から大麻団地の造成までの町の様子や人びとのくらしを生活用品類や教科書など身近な資料で展示している。

さらに、テーマ5、産業の歴史では、農業、酪農、窯業、日産、製紙業と五つのコーナーで江別の主幹産業の歴史が展示されている。農業では稲作の定着と発展に関する資料及び酪農関係資料、窯業ではレンガ製造やよきもの、水産業では石狩川のヤツメウナギ漁、さらに製紙業関係など江別の歴史文化の基盤となった生業資料の展示である。

江別市郷土資料館の設置に關しては「歴史、自然、産業文化等に関する資料を収集し保管し、調査研究し、及び展示して、これらを市民の利用に供し、生涯学習の振興並びに学術及び文化の発展に寄与するため江別市郷土資料館を設置する。」（江別市郷土資料館条例第一条）と、条例で定められているように、開館後の講座、見学会などの普及事業、資料の収集及び調査研究などの活動が大きく期待される館である。

住所 江別市緑町西一丁目三十八 ○二二三八五六六六
開館時間 九時～十七時
休館日 月曜日（月曜日が祝日のときは翌日）、祝日の翌日、館内整理日（毎月の最終金曜日）、年末年始
入館料 大人 二百円 小中学生 百円

北海道博物館略史 (3)

(6) 函館仮博物館

前回とりあげた札幌仮博物館は、北海道最初の博物館施設ではあったが、その建物は開拓使の古い官舎を転用したもので、規模も小さかった。

一般に公開されてはいないが、函館公園内にその姿を留めている。

この仮博物館の開設にあたっては、外国人や東京の教育博物館の助言、協力があつた。明治十一年八月、標本採集のため函館に滞在していた東京大学理学部教授兼教育博物館長の矢田部良吉と、アメリカ人動物学者で当時東京大学理学部教授だったエドワード・S・モースが、整備中の博物館を訪問した。それが契機となつて、矢田部とモースが函館で採集した動植物(貝類・匠葉)標本が寄贈され、資料の陳列・保存方法などについても指導や助言がなされた。

高い充実した博物館として発足したのである。建物には、木造平屋建寄棟造瓦葺、三一・五坪の母屋に切妻屋根瓦葺、一・三坪の吹貫玄関が付いた洋風建築で、これに監守人詰所(居所)と便所が付属し、詰所は廊下で接続していた。

館と関係の深い水産物(魚貝類)とその加工品が多いが、貝類はモースの寄贈資料が中心である。植物は野性植物のほか、農作物、木材の標本が多い。鉱物には、一般的な鉱石、岩石のほか、アイヌ民族資料、開拓使官営工場の製品(農具・漁網・家具・糸・織物・酒・油・織詰など)、写真が多い。また、明治十四年に東京の仮博物館が廃止されると、その陳列品の一部が移管された。

しかし、今回ふれる函館仮博物館は、博物館施設として建設したものとしては、北海道で初めての建物であり、しかも、現存する博物館施設では、わが国最古のものである。昭和三十三年に北海道有形文化財に指定され、現在は内部は

職員が研修のためモース等の調査旅行に加わり、さらに教育博物館に出張して彼等から博物館の仕事について指導をうけている。

開場日は、最初は大祭日を除く毎日となつていたが、後には十二月一日から三月末日までが休場期間となつた。開場時間は、季節によつて異なり、四月～十月は午前十時～午後五時、その後は午前十時～午後四時が一般的となつた。入場者数は、明治十二年が四万九千五百九十四人、同十四年が三万四千七百六十六人で、予想を上回る参観者でにぎわつた。入場料は明治十三年四月から一人に付五厘を徴収したが、十歳未満は無料であつた。

この仮博物館は、明治十五年に開拓使が廃止されると、函館県に移管された。



開拓使函館仮博物館

明治十一年(一八七八)三月、開拓使函館支庁在勤の権大書記官時任為基から開拓長官黒田清隆に宛てた「博物館新設ノ義伺」によると、北海道を中心とする自然の物産と人工製造物を収集して一般人の観覧に供し、北海道開拓の進歩、人民の知識の発達、国内外博覧会への出品業務の便宜、開拓使製造物の販売促進などを図るのが博物館設立の主な目的であり、開港場函館を訪問する内外旅行者への配慮もあつた。

また、開場の直前には、函館在留の実業家で、すぐれた科学者でもあつたイギリス人トーマス・W・ブラキストンから、彼が福士成豊の協力を得て採集した一、三・四羽の鳥類標本が寄贈された。このように、当時の函館仮博物館は、全国的に見てもレベルの

現在で三、〇六四個を数えている。その種類は、東京や札幌の仮博物館とほぼ同じである。動物ではブラキストン寄贈の鳥類剥製が群を抜き、函

〈主な参考文献〉
市立函館博物館「函館博物館一〇〇年のあゆみ」(昭和五十四年)、関秀志ほか「明治期における北海道の博物館(1)」(『北海道開拓記念館調査報告』第29号、平成二年)

建設工事は明治十一年五月に始まり、七月に完成し、その後、陳列に必要な内部の造作や監守人詰所等の工事がなされた。翌年五月に開場式が行なわれたが、準備期間中の十一年十一月三日の天長節に臨時公開している。工費は一、〇一四円余であつた。

現在で三、〇六四個を数えている。その種類は、東京や札幌の仮博物館とほぼ同じである。動物ではブラキストン寄贈の鳥類剥製が群を抜き、函

現在で三、〇六四個を数えている。その種類は、東京や札幌の仮博物館とほぼ同じである。動物ではブラキストン寄贈の鳥類剥製が群を抜き、函

(北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志)

館 園 動 向

◇川の科学館 開館◇

石狩川に近い滝川市西滝川に昨年9月に開館した同館は、科学の眼で、水を探る。川を知ることを目標にしたニュークな博物館である。館の正面外側には石狩川の流路を縮尺千分の一に再現した「石狩川リバーウオーク」を配置。

展示場は一、二階からなり、石狩川に生息する魚や貝などが生態水槽、観察水槽でみられるほか、石狩川の歴史と自然が物語られている。

平成二年度開館の博物館

① 風連町歴史民俗資料館

098 05 上川郡風連町東町七七
電話 ○一六五五・三三三三

② 蕨開陽丸青少年センター

043 松山郡江差町字姥神町一の十
電話 ○一三九五・二五五二

③ 川の博物館

073 滝川市西滝川一
電話 ○二二五・二四〇九八九

開館 平成二年度九月二十八日

④ 清水町郷土史料館
089 01 上川郡清水町南四条一
丁目
電話 ○一五六六・二二三三〇

⑤ 恵庭市郷土資料館
061 13 恵庭市南島松一五七
二
電話 ○二三三・三七二八八

⑥ 北海道立オホーツク流水
科学センター
094 紋別市元紋別十一・六
電話 ○一五八二・三五四〇〇

⑦ 北海道立北方民族博物館
093 網走市宇潮見三三三・一
電話 ○一五二四・五三三八八

⑧ 滝川市こども科学館
073 滝川市新町二丁目六一
電話 ○二二五・二二六六九〇

開館 平成三年三月十六日

事務局 日誌

1・8 道博協監修『北海道博物館ガイド』改訂版刊行について北海道新聞社より依頼
1・11 同上出版計画について北海道新聞社にて事務打合

わせ(矢野理事、矢島、山田)
1・16 事務局会議 『北海道博物館園等現況』編集について他

1・30 道博協ニュース第33号発行
2・1 札幌市円山動物園協会より協会加入申込書受理

2・8 道博協ニュース第33号発送業務
2・16 『北海道博物館ガイド』刊行について道内博物館・園に内容確認・他依頼

2・17 第5回北方民族文化シンポジウム後援名義の承認
2・20 平成2年度臨時在札役員会開催

2・20 第5回北方民族文化シンポジウム網走市にて開催(共催事業)
2・26 平成元年度及び2年度開館博物館・園一覽表、日博協へ提出

2・27 道博協事務局会議、第3回役員会について他
3・13 道博協ニュース 第34号原稿執筆依頼状送付

3・14 道新出版局図書編集部担当者として『北海道博物館ガイド』について打合わせ

3・15 「平成3年度普及及び展示事業について」のアンケート送付
3・16 平成3年度道北プロジェクト学芸職員会議開催事務打合わせのため旭川市へ矢島事務局長

3・20 事務局会議 平成2年度事業、会計報告、同3年度事業、会計予算等について
3・21 平成2年度第3回役員会開催案内状送付

3・28 第30回博物館大会事務打合わせのため苫小牧市へ山田(健)出張

道博協臨時役員会報告

去る二月二十日、札幌市のフジヤサントス ホテルにて在札役員を中心に①道博協30周年記念事業計画及び②道博協顕彰制度についての臨時役員会を開催した。事業計画としては「北海道博物館協会30周年記念誌」の刊行ほか、特別講演会の実施などが話題となった。また、顕彰制度に關しては、「北海道博物館協会表彰規定」(案)をもとに検討がなされたが、これらの詳細は、四月九日に予定されている役員会にて審議されることになっている。なお、当日の出席者は、金子民男、近間郁雄、副会長、金田寿夫、北川芳男、栗原引茂、佐藤一夫、矢野、各理事、事務局から矢島、山田(健)、丹治、小田島が出席した。

◇平成二年度道博協への加入と組織状況◇

平成二年度の道博協大会は江差町において開催されたのを機会に、当年度は松山管内から江差町郷土資料館、大成町郷土館、熊石町歴史記念館、開陽丸青少年センター、今金町教育委員会の五団体の加入をいただいたのをはじめ、二年度の新規加入は、団体十三、賛助一を数えています。また、平成三年度からの加入として、すでに札幌市円山動物園協会、端野町歴史民俗資料館が加入手続を終えています。なお、平成二年三月三十一日現在の組織状況は、団体百三十五、個人八十、賛助十六の計二百三十一。一層の御支援をお願いたします。